

## 第39回（令和2年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校低学年の部＞応募総数：115

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	三崎小学校	2年	西村 暖乃音	長い五分とみじかい五分のよさ
優 秀	清水小学校	1年	弘田 律人	かぶとさんじゅうろう
	下ノ加江小学校	2年	松岡 龍芯朗	「ダンゴムシ」を読んで
入 選	足摺岬小学校	1年	永野 歩来	「しんせつなともだち」をよんで
	清水小学校	1年	益永 陽斗	おつきさまとって
	清水小学校	1年	田中 心衣奈	タヌキのきょうしつ
	幡陽小学校	1年	山本 暖大	「だいふくもち」
	下川口小学校	2年	濱田 結芽	えんぴつびなを読んで

### 【審査評】

- 学年に合った、自分の興味のある本を選んでいた児童の作品が、書きぶりがよかった。
- 学校によって、書き方がパターン化されていたので、個性が光る作品を、入選作品とした。
- 段落などの基本的な書き方に間違いが見られた。
- 普段からの読書に対する意識を高める学習に取り組んでほしい。

## 第39回（令和2年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校中学年の部＞応募総数：122

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水小学校	3年	寺田 弥智瑠	「かみさまにあいたい」を読んで
優 秀	足摺岬小学校	3年	野村 涼太	『エルマー』から教えてもらった心の強さと思いやりの心
	下川口小学校	4年	公文 歩	「ポリぶくろ問題から生き物を守ろう」
入 選	下ノ加江小学校	3年	岡林 羽咲	「青いあいつがやってきた」を読んで
	幡陽小学校	4年	野村 光希	成岡さんとハチのきずな
	清水小学校	4年	小松 和奏	ありがとう実験動物たち
	清水小学校	4年	中山 京	「盲導犬のことをもっと知ってほしい」
	三崎小学校	4年	田城 優姫	わすれな石を読んで

### 【審査評】

- 本の内容と自分の体験（生活）を重ねて書かれている文章は思いが伝わってくる。
- 最後までていねいに書けている作品が多かった。
- 自分の思いが書かれておらず、あらすじで終わっている作品があった。また、同じことをくり返して書いている作品もあった。
- 本の内容から自分がどう考えるようになったか、どう生活したいと思ったか書かれている文章があり、深く読みこまれていた。

## 第39回（令和2年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜小学校高学年の部＞応募総数：139

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水小学校	5年	吉村 来隼	動物の命の大切さ
優 秀	三崎小学校	6年	浜口 夏葵	「自分らしく生きていく」
	下川口小学校	6年	廣畑 芽生	郷土の先人ジョン万次郎
入 選	幡陽小学校	5年	山崎 栞奈	少女たちの友情
	清水小学校	5年	中野 心月	あきらめないことの大切さ
	清水小学校	5年	原 創太	夢をかなえるすてきな話
	下ノ加江小学校	6年	上野 琉聖	ぼくらのメリークリスマス
	清水小学校	6年	東 航太郎	学校に行く理由

### 【審査評】

- 自分の生活を見つめて書けている作品が多くあり良かった。
- あと一步で入選になりそうな作品が多かった。
- 誤字、脱字に気を付けてほしい。とても丁寧な文字で書けている作品もあった。
- 規定枚数を過ぎている作品があった。

## 第39回（令和2年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

＜中学校の部＞応募総数：225

	学校名	学年	氏名	題名
最優秀	清水中学校	3年	小野 優空	生きる意味
優 秀	清水中学校	1年	原 彩奈	いじめと障害
	清水中学校	2年	山本 沙椰	「直く」生きること
入 選	清水中学校	1年	戸田 ころろ	「夏の庭」を読んで
	清水中学校	1年	武田 りこ	「天井に星輝く」を読んで
	清水中学校	2年	畠中 杏	当たり前だと思っていたこと
	清水中学校	2年	森 みなみ	走れることの大切さ
	清水中学校	3年	長崎 葵	幸せ

### 【審査評】

- 本から自分の今から先（将来）を見ることができていた。
- 今の課題を、本と向きあい迷いの中で見出すことができていた。
- 本とのふれあいのが少ないので、読書に親しめる環境作りをしていくことが課題。
- 普段の生活をどう見つめ直すかで、読書感想文に深みが出てくると思う。

## 第39回（令和2年度）土佐清水市読書感想文コンクール入選作品一覧

<高等学校の部>応募総数：36

	学校名	学年	氏名	題名
優秀	清水高等学校	1年	扇喜 舞花	三度目の『人間失格』
入選	清水高等学校	1年	河野 愛	暗い未来
	清水高等学校	1年	中山 夏希	「ほんとうのしあわせ」

### 【審査評】

太宰治が自身の内面とそれを守るための苦しみをえぐり出すように描いた名作をはじめ、当時あまり知られていなかった農薬のもたらす生態系への影響について述べたレイチェル・カーソンの世界的な名著、宮沢賢治が星と光と大地の幻想的な世界を通して自己犠牲や友情などのテーマを描く傑作童話など、本年度も皆、様々なジャンルやテーマの作品に取り組み、自由にその感想を述べてくれました。

このように多様なテーマや登場人物に共感しながら作品を読み進め、「自己」や「他者」という存在やこの「世界」について考えを深めていくことは、高校生として、また現代の若者として自身を成長させるよい機会となってくれたことでしょう。

また、そこで感じた思いを率直に自分の言葉で語ることは、現代に必要とされるコミュニケーション力を養う上でもよい刺激となったはずです。

皆、この素晴らしい読書体験を通して心を豊かにし、視野を広げ、今後の高校生活を実りあるものにしてほしいと思います。